



陳情・要望

2024 - 15

令和6年11月12日

相模原市長 本村 賢太郎 様

麻溝まちづくり会議

会長 中島 勝平

次期一般廃棄物最終処分場に係る要望書

日頃より、地域のまちづくりに多大なご支援を賜り感謝申し上げます。

さて、麻溝地区にある現在の一般廃棄物最終処分場は、埋立容量を増やすため最大20mに及ぶ嵩上工事が計画されていますが、それでも現在のペースで埋立てを続けると、令和19年には満杯になると見込まれています。そのため、市は令和4年3月、現在の最終処分場に隣接する麻溝地区の2箇所を、津久井地区の2箇所とともに次期最終処分場候補地として選定しました。

麻溝地区まちづくり会議では、昨年5月に「最終処分場部会」を設置し、ごみの更なる資源化・減量化や地域の将来を見据えながら、この問題への対応について検討しています。多くの課題があるにもかかわらず、市では次期最終処分場候補地の絞り込みに向けた手続きが進められており、麻溝地区の候補地が最も有力な候補地とされる可能性も排除できないため、最終処分場部会での議論を踏まえ、麻溝まちづくり会議として次の各項目について要望することとしたものです。

【要望項目】

1 次期最終処分場の次の最終処分場は造らないこと

市内に最終処分場用地の確保が困難であり、埋立ゼロを実現すること。

2 更なるごみの資源化・減量化を推進すること

要望項目1の達成に向け、次の内容を踏まえたロードマップを提示すること。

- ①最終処分場の整備が難しいことを市民にきちんと知らせること。
- ②家庭から排出されるごみを大幅に削減するため、4Rを推進するとともに有料化や戸別収集の実施等を検討すること。
- ③最終処分場への埋立量を大幅に削減するため、ごみ処理段階での資源化を推進すること。

3 行政と地域がともに考える地域振興策を実現すること

従前から要望している県道52号の4車線化、路線バスの利便性向上を推進するとともに、最終処分場の跡地利用や麻溝公園周辺のまちづくり等に関するワーキンググループを組織し、話し合った地域振興策を実現すること。

なお、仮に次期最終処分場の最終候補地に麻溝地区の候補地が選定された場合には、以降は麻溝地区に最終処分場を造らない旨の誓約書を提出すること。

■ 各項目の説明

1 次期最終処分場の次の最終処分場は造らないこと

4箇所の次期最終処分場候補地は、市内に最終処分場に適した場所がなかったことから、様々な対策等を講じて整備できる可能性のある場所として選ばれたに過ぎません。いずれの候補地も地域にとっては大切な土地であり、本来は候補地となるような場所ではありません。多摩地域では埋立ゼロを実現しており、本市でも次期最終処分場を最後の最終処分場とするため、真剣に取り組む必要があります。

2 更なるごみの資源化・減量化を推進すること

①最終処分場の整備が難しいことを市民に知らせること。

市は、この先市内に最終処分場を整備していくことが難しいという事実をきちんと周知しておらず、多くの市民は、最終処分場の問題が切迫し、危機感を持って更なるごみの資源化・減量化に取り組む必要があることを理解していません。すべての市民に対し、あらゆる機会を通じて啓発すべきです。

②家庭から排出されるごみを大幅に削減すること。

近年の異常気象の原因と言われる地球温暖化防止の観点からも、脱炭素社会の実現に向けた取組は重要であり、ごみの資源化・減量化には最優先で取り組むことが求められています。ごみを出さない人はひとりもおらず、誰もが自分事として考えなければならない問題ですが、残念ながら、未だに「ごみは集積所に出しさえすれば、市が無料で処理してくれる」と思っている市民が多いのが現実です。4Rの推進だけではなく、ごみに対する市民の意識を変え、痛みを共有しながら行動に移してもらえる有料化等の新たな施策の実施が、今こそ必要ではないでしょうか。

③最終処分場への埋立量を大幅に削減すること。

現在の最終処分場の延命化及び次期最終処分場のダウンサイジングを図り、次期最終処分場を最後の最終処分場とするため、②の取組に加え、熔融スラグの更なる活用や焼却残渣の資源化等の施策を推進していく必要があります。

3 行政と地域がともに考える地域振興策を実現すること

ごみ処理施設が集中し、これまで市内全域のごみを受け入れてきた麻溝地区としては、更に麻溝地区だけが負担を強いられる形で次期最終処分場を受け入れることには疑問の声が多々あります。単に「市民生活に必要な施設だから」というだけでは受入れはできません。どんなに立派な施設を造ったとしても、所詮は迷惑施設に変わりないということも理解すべきで、補償という観点から地域の振興策を併せて提示する必要があります。

◆麻溝地区として、これまで要望してきている県道52号の4車線化の早期実施、行財政構造改革プランで中止となったJR原麻駅と小田急相模大野駅間を結ぶ新交通システム(BRT)の代替策とされた同区間の路線バスの充実、JR原麻駅と女子美術大学・麻溝公園を結ぶ直通バスの運行等について推進していただきたい。

◆現在の最終処分場の跡地利用について、市は埋立終了時の形状を活かした公園として整備したいとしています。最終処分場の跡地を含めた麻溝公園周辺地域については、防災公園や屋根付屋外スポーツ施設等の整備を求める声も地域にはあり、麻溝の豊かな自然を活かした一大レクリエーションゾーンとする方向で、地域とともに検討していただきたい。